



大洲高校 PTA 月報

令和2年10月号

会員寄稿

「与える」ということ

進路課長 阿部 純忠

本校に赴任しておよそ半年、経験したことのないコロナ禍により生活様式がめまぐるしく変化し、未だに地に足がついていない状態が続いている気がします。少し落ち着いてきたとはいえ、先の見えない不安に落ち着かない日々が続いているのではないのでしょうか。ただ、学校ではいつもと変わらない風景、いつもと変わらない日常があり、そこにいれば友達もいて安心できる場所であることも間違いのない事実だと思います。つくづくいつも通りってありがたいものです。

話は変わりますが、相手が「わかる」ためには、相手がそれを第三者に「伝えられる」状態にする必要があると、数学関連の書籍に書かれてあったことを思い出しています。生徒自らが問題を再現できない（人に伝えられない）ようでは、所詮自己満足の世界に浸っているのでは、と自分の実践を自問自答しているところです。何年前、「先生、『 $e^{i\pi} = -1$ 』がわかったけん、放課後空けといて。」と声をかけてきた生徒がいました。学生時代に読んだきりほこりをかぶっていた『オイラーの贈物』という書籍を、その生徒に勧めて貸していたことをすっかり忘れていて、思いがけない申し出に心躍らせながら教室に向かい、ぎこちなくも根気強く私に「伝える」その姿に触れ、ふと上記のことが浮かんだのです。割と硬派な数学書籍ですがお勧めの一冊です。確か図書館にもありましたよ。

他者にエネルギーを与えることが、同時に自分自身のエネルギーも生み出すという「フォワードの法則」というものがあるそうです。人はもらうよりも与えることに喜びを感じる遺伝子があり、人に何かをしてあげようと考えていたり、現実には与えることができたりすると、それだけでうれしくなる感性があるようです。与えることで、自分の心のエネルギーを高めるという人間固有の崇高な感性です。伝えるということは、広い視野や展開を読む力が必要で、それが自己に結びつけばその喜びも倍増します。「充実感」を味わうことのできる生徒は、おのずから学習を始めるようになり、それが楽しいと感じるようにもなります。与えるという行為もそうですが、そういう「意識」や「思考」こそが「フォワードの法則」のポイントなのでしょう。自発的に行動する人は、例外なくこの「与える」意識や思考があるのだと思います。見返りを求めることなく与えていきましょう。

高校時代は3年間と限られていて、学習も受け身でなく、自らやるという姿勢を前面に出してほしいと思います。その意欲を引き出すために、いかに充実感を味わわせ、いかに持ち上げるか（？）自分自身教える側にとっても大切なことであると自戒しつつも。

1年生の皆さん、高校生活にもすっかり慣れ、入学前に持っていた理想の姿を構築できていますか。2年生の皆さん、様々な場面でリーダー的な存在となって活動する機会も増えてくる頃だと思いますが、今までとは一味違った存在感を確立しつつありますか。そして3年生の皆さん、自己の進路実現を目指して切り替えていこうとしていますね。そんな自分に戸惑ったりしていないですか。これからが肝心です。たとえ逆境にあっても芯の強さを発揮できる強い自己を育んでほしいものです。